



第180号

令和7年2月1日
発行常民文化研究会

「クロス」とはギリシャ語 Xopos で英語 Chorus コーラスに当たります。ギリシャ悲劇では十数人の合唱団として、演劇の進行を説明し、時には民衆心を代弁する重要な役割を果たすものです。私達の心を反映する小さな場としてこの会詩を「クロス」と名付けました。

入会受付について

入会は随時受付し希望者は、事務所に葉書にて、住所、氏名、電話番号を連絡の上、本会の郵便振込口座（〇〇二八〇九一二七九〇）一年会費一〇〇〇円を振込み下さい。

石鎚講中参拝紀念録に世相を読む(5)

—安芸国忠海二窓西山講中の二百六十年に寄せて—

西海 賢二

昭和四十一年七月三日登拝
先達 西山幸吉
樋口謹松
西山信一
堀井勇一
角本春成
居蔵恩三
山科石太郎
浜本善次郎
明田竹松
山本重春
津田捨吉
永福竹松
丸亀梅松
山本睦治
吉田実
吉田松右衛門
岡本広光
山科初一
長谷友一
新中益一
角本平太郎
木村常夫
山科ヒサ
西山ハツ
西山ユリ子
堀井鶴子
岡本安枝
中宮 成就社「印」「印」

西山講頭 西山幸吉
夙に敬神の念厚く当神社を尊崇西山講第五代の講頭として活躍永年に亘り多数の信徒を引率して登山参拝石鎚信仰を揺るがすに感銘の至り仍つて茲に賞表する
昭和四十一年七月三日
補名譽大監長に特進 石鎚神社宮司 十亀和作 「十亀印」「印」
昭和四十二年七月二日登拝
先達 西山幸吉
山科石太郎
樋口謹松
居蔵恩三
山本睦治
明田竹松
津田捨吉
浜本善次郎
吉田実
堀井勇一
岡本広光
角本平太郎
吉田基
山本茂春
丸亀梅松
西山信一
永福竹松

以上三十名
昭和四十二年七月二日
補名譽大監長に特進 石鎚神社宮司 十亀和作 「十亀印」「印」
任大取締 浜本善次郎
右昇進「印」
昭和四十三年七月七日登拝
先達 西山幸吉
居蔵恩三
山科太郎
樋口謹松
明田竹松
山本睦治
津田捨吉
浜本善次郎
吉田実
丸亀梅松
角本平太郎
山本重春
山科初一
居蔵半重
西山ユリ子

「印」

以上十七名 「印」「印」
昭和四十四年七月六日
先達 西山幸吉
居蔵恩三
山科太郎
明田竹松
津田捨吉
山本睦治
角本春成
丸亀梅松
浜本善次郎
吉田実
山科初一
岡本広光
山本茂春
居蔵半重
木村恒夫
山科クニヨ
西山ハツ子
本村ハツ子
鶴宮先生

副監長

居蔵

昭和四十六年七月三日
先達 西山幸吉
登山参拝 居蔵恩三
大監長に昇進 明田竹松
山科石太郎
山本睦治
山本善次郎
西山信一
丸亀梅松
吉田実
津田捨吉
特別大監長に昇進 山科初一
山本佳督
西山ハツコ
山科クニヨ
島津ミチヨ
津田ナツコ
浜本浩

大監長に昇進 山本重春
丸亀梅松
山本佳督
津田ナツコ
西山百合子
西山ハツ子
島津ミチヨ
丸亀敏昭
樋口稔
山科クニヨ
右二十一名
石鎚神社宮司 十亀和作
「印」「印」「印」「印」
昭和四十八年七月一日
先達 西山幸吉
山科石太郎
居蔵恩三

右二十名登拝を証する
石鎚神社宮司 十亀和作
「印」「印」「印」
昭和四十七年七月一日
先達 西山幸吉
居蔵恩三
特別大監長昇進 明田竹松
山科石太郎
山本睦治
西山信一
角本春成
濱本善次郎
吉田實
利夫
山科初一